

所報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第157号 令和3年1月18日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

- ・令和2年度学力向上策ヒアリングを終えて



令和2年度学力向上策ヒアリングを終えて

江別市教育委員会
学校教育課指導主事

本年度の「学力向上策ヒアリング」を10月に実施しました。お忙しい中、校長先生、教頭先生はじめ主幹教諭、教務や研究等の担当の先生方の出席をいただきました。各学校の実態を踏まえた特色ある学力向上の取組について伺うことができ、誠に有難うございました。

令和2年度は、全国学力・学習状況調査が中止になりましたので、NRT学力検査の結果及び児童生徒質問紙集計結果及び、それらをもとにして作成した江別市学校改善支援プランより課題改善策の一部抜粋、各小・中学校の学力向上の取組の一部を紹介させていただきます。

1 令和2年度 NRT学力調査結果（江別市） [平均偏差値]

教科	国語	算数・数学	社会	理科	英語	
小 3	50.5	49.1				＜小学3年生＞ ・国語は全国平均をやや上回っているが、「書く事柄や順序を考えて書く」の項目が、全国平均を下回っている。 ・算数は全国平均を下回っており、特に「数量関係」の領域が低くなっている。
小 4	52.7	51.0				
小 5	51.2	49.7				
中 2	51.7	51.3	50.6	51.9	52.0	

＜小学4年生＞

- ・国語は全国平均を上回っている。領域別に見ても、どの領域も全国平均並みかそれ以上の結果となっている。
- ・算数も全国平均を上回っており、昨年度より1.8ポイント高くなっている。5段階分布では、4・5の段階が全体の45%を占めるが、1・2の段階も30%近くおり、2極化の傾向がみられる。

＜小学5年生＞

- ・国語は全国平均を上回っているが、「漢字の読み・書き」の項目が全国平均よりやや低くなっている。
- ・算数は全国平均よりやや低くなっている。特に「量と測定」の領域が低くなっている。

＜中学2年生＞

- ・すべての教科で全国平均を上回っている。
- ・領域別にみると、国語の「文や文節、単語についての理解」、英語の「伝言・手紙・メモに適切に応じる」の領域が高く、社会の「歴史（原始～中世）」、数学の「比例と反比例」の領域は全国平均より低くなっている。
- ・理科は、5段階分布をみると、5の段階が18%と高くなっているが、1の段階も10%を占めている。

＜児童生徒質問紙集計結果＞

- 「主体的・対話的で深い学び」による授業改善については、意識した取り組みがなされている。特に、話し合い活動が難しい状況の中で、工夫して取り組んできた成果が表れている。
- 「学習習慣・生活習慣」では、普段の学習時間が昨年度より増えてきているが、反面、ゲームやスマートフォンの使用時間が多くなっている。
- 自尊意識については、中学校では高くなってきているが、小学校では逆に低下してきている。長期の臨時休業で、家族以外との触れ合いが少なくなったことも影響している可能性もある。

2 調査結果から見られる課題の改善のために（令和2年度「江別市学校改善支援プラン」より）

- 継続的な検証改善（PDCA）サイクルを確立し、児童生徒一人一人の学習状況の改善のため、学校がチームとして学力向上の取り組みを推進していく必要がある。
- 調査結果を各学校で分析し、児童生徒の実情に合った補充的学習等を行っていく必要がある。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、今後も教師主導型から児童生徒の活動が中心となる授業改善を進めていく必要がある。
- 「学習習慣・生活習慣」では、児童生徒への指導だけでなく、「江別スマート4ルール」の活用等、保護者の理解と協力のもと、各学校での効果的な取組をしていく必要がある。
- 自尊意識については、一人一人が生き生きと活動できる場面を設定していくなど、工夫した取組が必要である。

3 学力向上の取組

（1）学校全体での組織的な取組

- 全国学力・学習状況調査や標準学力検査の結果分析を行い、経年変化を分析・蓄積するとともに、学力の向上に必要な具体的な改善策を定め、組織的・継続的な学力向上の取組が進んでいます。

（2）ICT機器の効果的な活用

- 指導の効果を高めるために、ICT機器やデジタル教科書が有効に活用されています。
- 教室内のICT機器の設置位置を統一したり、本年度より導入した新しい電子黒板を積極的に活用したり、ICT機器の有効活用が進んでいます。

（3）学習規律

- 各小中学校では、学習規律やあいさつ等の礼儀について、継続的にていねいに指導されています。すべての学校で、全校で統一した学習の約束を掲示・配布し、また、保護者に配布している学校もあります。

（4）学習過程と板書の工夫

- 「授業の冒頭で目標を示す」、「まとめ・ふりかえりによる理解の確認」、「理解深化のための定着問題の実施」、「児童生徒の自己評価」など指導過程を工夫し、小学校、中学校ともに、基礎学力を定着する授業改善の取組が継続されています。
- ノート指導につながる「板書」を重視し、1時間の学習の流れや学習内容が一目でわかる構造的な板書にするため、指導案とともに板書について校内研修に位置づけている学校もあります。

（5）「主体的・対話的で深い学び」とカリキュラム・マネジメント

- 単元や題材のまとまりの中で、「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にし、子どもたちが「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を意識した授業改善を進めていくことが重要です。また、「カリキュラム・マネジメント」を通じて、子どもたちや地域に実態に合った教育課程を編成していくことが重要です。

（6）家庭学習の習慣化

- 児童生徒質問紙の集計結果から、家庭学習の取組については、全国平均を上回った昨年度よりも、さらに高くなっています。どの学校でも家庭学習の習慣化のためにていねいな指導が行われ、各家庭との連携もとれています。

（7）小中一貫教育に向けて

- 令和5年度よりすべての小中学校で実施される「小中一貫教育」に向け、義務教育9年間で児童生徒に育成したい力を明確にするとともに、系統性と指導の一貫性を踏まえ、重点的に取り組む指導内容を共有して、学力向上に向けた小中連携の取組をさらに充実していただくようお願いいたします。